

＜過去1週間の動き＞

(8月13日～8月19日)

USD/RUB: 58.750～62.100

過去1週間のロシア・ルーブル相場は、対ドルで、ほぼ一方向的な上昇。5営業日で+3.35ルーブル(+5.7%)という上昇幅(安値→高値)は、ウクライナ開戦以降の値動きとしては小幅に見えるものの、同開戦以前の感覚では相応な値幅と言える。並行してドル指数(ユーロ、円などで構成された主要通貨バスケットに対するドルの強弱の尺度)も明確に上昇していたので、その他主要通貨に対するルーブルの上げ足は(対ドルよりも)更に強かったことになる。ただし、日々のルーブル上昇に特段の新規要因があったかという点、引き続き、「巨額の経常黒字を背景としたルーブル買い需要＞ルーブル売り需要」という構図＝資金流以外にこれといった要因は見当たらなかった。週初、「欧米の一部金融機関がロシア国債の取引仲介を再開」「ロシア国債価格に上昇圧力」などといった報が一部で聞かれた。確かに、週明け以降、ルーブル建ロシア国債(OFZ)は堅調に推移しており(利回りは低下)、ルーブル上昇要因と読むこともできたかもしれない。ただし、取引が再開されたのは欧米投資家による同国債の売却のみで、欧米投資家による購入は(経済制裁対象故に)引き続きできない模様。買い手はロシア居住者か、ロシアにとって「非友好的でない国」以外の国の投資家(中国やインド、トルコなど)と考えられた。値段がつかなくなったものに、値段がつくようになって、値段が上がるというの、わからないではないが、いずれにしても決定的な要因とは思われなかった。他に、目新しい話ではないものの、この間、ロシア国家福祉基金が人民元、インド・ルピー、トルコ・リラなどを構成通貨に加える/積み増すといった話が声高に聞かれた。年明けにも、財政ルール(再適用と原油高による余剰税収(予算との比較で)の外貨転を再開するという文脈で、この話は逆にルーブル安要因と読めたはずだろう。

＜向こう2週間の見通し＞

(8月20日～9月2日)

USD/RUB: 55.50～61.50

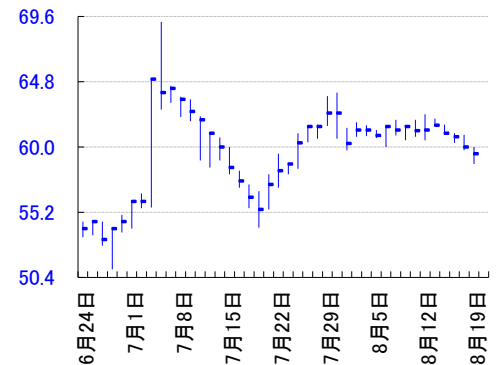
向こう2週間のロシア・ルーブル相場は、巨額のロシア経常黒字(ルーブル買い需要＞ルーブル売り需要の構図)を背景に、引き続き、ルーブル堅調予想を中心に据えるしかない。ウクライナ開戦後の戻り高値(6月29日の51.00)、直近高値(7月20日の54.07)まではまだ上昇余地があり、ルーブル高がロシア当局者からなんらかの対応(ルーブル高けん制発言など)を誘う可能性は今の段階で考え難いだろう。ルーブル安方向の波乱要因として、上述、ロシア国家福祉基金の外貨買いには注目しておきたい。仮に、ロシア中銀が(中銀同士で為替取引を行い、「非友好的でない国」の中銀が手にしたルーブルをそのまま外貨準備として積み上げるのではなく)、従来同様、市場でルーブルを売却するのであれば、元やルピーなどの対価として手にしたルーブルを、市場参加者が対ドルで売却する可能性は考えられる。経済制裁でドルを取引できないロシア中銀が、実質的なルーブル売り介入を他国の商業銀行に執行してもらう格好になろう。もっとも、早ければ9月中にも詳細発表が予想される新「財政ルール」は、早くても年内に法制化、年明け以降執行と見込まれており、向こう2週間の材料になるとは考え難い。もうひとつ、やはり目先の要因とは思えないものの、ウクライナでの戦況も気掛かり。ここ数週間、「ウクライナ軍が(ロシアに占領された)南部で攻勢に転じる準備を整えている」などといった観測が頻繁に聞かれる。仮に、ウクライナ軍が実際に攻勢に転じ、ロシア軍が劣勢に追い込まれた時、或いは、現時点でロシア軍が占拠しているウクライナ東部の大型原発で、万が一、深刻な事故が起きた時、通貨金融市場で何が起きるのか?(起きないのか?)今の段階から頭の体操をしておくことは、無駄な作業でもあるまい。

＜向こう2週間に発表予定の主要経済指標等＞

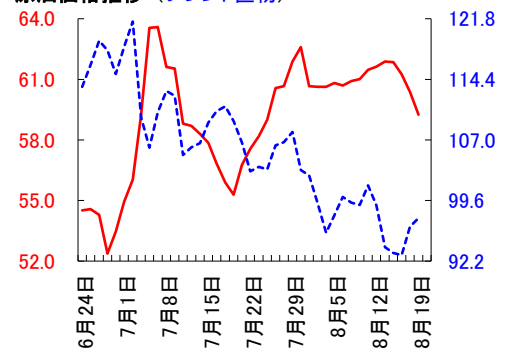
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/24	16:00	鉱工業生産(前年比)	7月		-2.3%	-1.8%
8/31	16:00	小売売上高(前年比)	7月		-9.6%	-9.6%
	16:00	失業率	7月		3.9%	3.9%
	16:00	実質賃金(前年比)	6月		-6.1%	-6.1%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

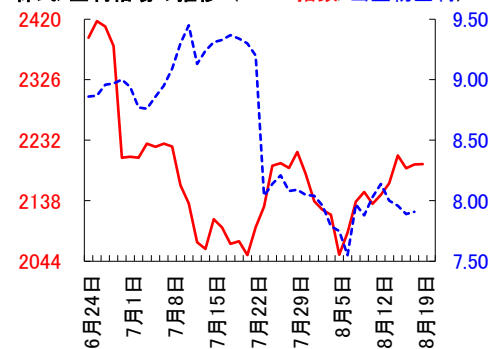
USD/RUBの推移 (日足/ロンドン7:00～17:00)



株ルーブル/バスケット推移 (ロシア中銀公示) 原油価格推移 (ブレント直物)



株式/金利相場の推移 (MOEX指数/当翌物金利)



(資料: ロシア中銀/ロイター/ブルームバーグ)

ロシア関係主要経済指標

1週間物入札金利		8.00%
成長率(GDP/前年比)	Q2	-4.0%
失業率	6月	3.9%
消費者物価(前年比)	7月	+15.10%
小売売上高(前年比)	6月	-9.6%
鉱工業生産(前年比)	6月	-1.8%
貿易収支(USD)	1月	+21.2bn
経常収支(USD)	Q2	+70100mln

＜お知らせ＞

筆者休暇のため次回の「ロシア為替週報」は9月5日の発行を予定しております。ご迷惑をお掛けし申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。